東京国立近代美術館フィルムセンター

日本におけるチェコ文化年 2017　チェコ映画の全貌

Tracing the Czech Cinema at The Year of Czech Culture 2017

2017 年 11 月 28 日(火)ー12 月 24 日(日)
東京国立近代美術館フィルムセンター　大ホール(2 階)

日本未上映作を数多く含む、大規模なチェコ映画特集を開催！

Photo courtesy National Film Archive

（左上から右へ）『悪党の女たち』、『天井』、『エロティコン』、『マルケータ・ラザロヴァー』、『アデラ／ニック・カーター、プラハの対決』『夜のダイヤモンド』、『お人好しの兵士シュヴェイク』、『火事だよ！カワイ子ちゃん』、『すべての善良なる同胞』

フィルムセンターでは、11 月 28 日より 4 週間にわたって、チェコ映画の特集を開催します。20 世紀のチェコは、オーストリア＝ハンガリー帝国下の時代（～1918）から、チェコスロヴァキア（第一）時代、ナチス・ドイツによる占領と戦後の解放、社会主義共和国時代、チェコ共和国時代と、激動の歴史を歩んできました。そうした歴史的変遷の中で、チェコ（スロヴァキア）映画は、同時代の各国における先鋭的な映画作りや先端的な文化・芸術を採り入れ、自由奔放な想像力や鋭い社会風刺に満ちた、独創的な映画を作り続けてきました。1960 年代に起こった「チェコ・ヌーヴェルヴァーグ」は、その最良の成果と言えるでしょう。

本特集では、1920 年代の無声映画期から、初期トーキーの時代、戦後のジャンル映画、チェコ・ヌーヴェルヴァーグの傑作群、そして「プラハの春」以後の 1970 年代の作品まで、7 本の無声映画を含む 26 作品（24 プログラム）を上映します。その多くが日本で上映されたことのない優れた作品ばかりであり、これだけまとまった形でチェコ映画を観ることができるのは、過去に例がありません。世界の映画に多大な刺激を与え続けてきたチェコ映画の驚くべき豊かさとその歴史的変遷を知る絶好の機会となります。ぜひご紹介いただきますようよろしくお願いいたします。

◆本特集の見どころ

＊フィルムセンターで初めて、日本では過去最大規模のチェコ映画特集。
＊無声映画期から 1970 年代までの映画史的に重要な作品をセレクト（すべて日本語字幕付き）。
＊26 本中 18 本が日本初上映作品。
＊無声映画作品はピアノ伴奏を付けて上映。
＊12 月９日（土）には、チェコ国立フィルムアーカイブの研究者を招聘して講演会を開催。

■日本におけるチェコ文化年 2017 チェコ映画の全貌　Tracing the Czech Cinema at The Year of Czech Culture 2017

会期：2017 年 11 月 28 日(火)ー12 月 24 日(日)
会場：東京国立近代美術館フィルムセンター　大ホール(2 階)
主催：東京国立近代美術館フィルムセンター、チェコ国立フィルムアーカイブ、チェコセンター東京
協力：ペトル・ホリー(チェコ蔵主宰、女子美術大学講師)
料金：一般 520 円／高校・大学生・シニア 310 円／小・中学生 100 円／障害者(付添者は原則 1 名まで)、キャンパスメンバーズは無料
★ピアノ伴奏付き上映の回
一般 1,050 円／高校・大学生・シニア 840 円／小・中学生 600 円／障害者(付添者は原則 1 名まで)は無料、
キャンパスメンバーズ料金あり(教職員 500 円、学生 400 円)
掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600(ハローダイヤル)

【本件に関するお問合せ】東京国立近代美術館フィルムセンター　事業推進室　白鳥・大澤・冨田
TEL：03-3561-0823　FAX：03-3561-0830　nfc-pr@momat.go.jp 〒104-0031　東京都中央区京橋 3-7-6

◆26 作品の見どころ （★は日本初上映作品）

＊知られざるチェコ無声映画の豊穣さ

『大聖堂の建築者』

★**大聖堂の建築者**（1920、カレル・デグル＋アントニーン・ノヴォトニー）
中世の大建築家ペトル・パルレーシュをモデルにしたドラマ。ロケーション撮影と建築が共に魅力的。

★**暗闇の訪れ**（1921、ヤン・スタニスラフ・コラール）
蘇った死者が生前の思いを遂げようとする。ヒロインは世界的女優アニー・オンドラコヴァー（オンドラ）。

★**悪党の女たち**（1927、スヴァトプルク・イネマン）
アニー・オンドラコヴァーが体を張って躍動し、奇想天外なギャグに満ちた大暴走コメディ。

『暗闇の訪れ』

★**バタリオン**（1927、プシェミスル・プラシュスキー）
人生を捨てて酒場にたどりついた男の生き様を描く。写実と前衛的手法を駆使したチェコ無声映画の代表作の一つ

★**エロティコン**（1929、グスタフ・マハティー）
人間の性と欲望を探究し続ける名匠マハティー監督が、イタ・リナを主演に抜擢して撮ったメロドラマ。

★**これが人生**（1930、カール・ユンハンス）
実直な妻の悲劇を徹底的なリアリズムによって追求したチェコ無声映画の代表作の一つ。

★**勇敢な兵士シュヴェイク**（1930、マルチン・フリッチ）
世界中で愛される国民的小説を映画化した、最初期の 3 本の作品を再編集したもの。

＊多種多彩なトーキー作品

『絞首台のトンカ』

★**絞首台のトンカ**（1930、カレル・アントン）
チェコ初のトーキー。『エロティコン』で世界的スターとなったイタ・リナが転落する娼婦を熱演。

『サイレン』

★**土曜から日曜へ**（1931、グスタフ・マハティー）
名匠マハティーの初期トーキー。男女の恋の機微を日常の細部に至るまで精緻に描く。

★**サイレン**（1947、カレス・ステクリー）
ヴェネツィア国際映画祭でグランプリを受賞し、戦後のチェコスロヴァキア映画に注目を集めるきっかけとなった作品。

『クラカチット』

★**クラカチット**（1948、オタカル・ヴァーヴラ）
原子爆弾の発明を寓話的に描いたチャペックの小説をフィルム・ノワール的な映像と語りで映画化。

★**お人好しの兵士シュヴェイク**（1957、カレル・ステクリー）

・**閣下に報告**（1958、カレル・ステクリー）
「シュヴェイクもの」では最も知られた二部作。

＊チェコ・ヌーヴェルヴァーグとその周辺

『鳩』

★**鳩**（1960、フランチシェク・ヴラーチル）
巨匠ヴラーチルの長篇劇映画デビュー作にしてチェコ・ヌーヴェルヴァーグの嚆矢とされる作品。

・**天井**（1963、ヴィエラ・ヒチロヴァー）

・**袋いっぱいの蚤**（1963、ヴィエラ・ヒチロヴァー）
ヒチロヴァーのみずみずしい初期作品。若い女性の多面的な姿がシネマ・ヴェリテ的な撮影で綴られる。

★**ホップ・サイド・ストーリー**（1964、ラジスラフ・リヒマン）
『ウェスト・サイド物語』（1961）に影響を受けて作られた大ヒットミュージカル。

・**夜のダイヤモンド**（1964、ヤン・ニェメツ）
「チェコ・ヌーヴェルヴァーグの恐るべき子供」と評されるニェメツの代表作。収容所へ向かう列車を脱走した二人の少年の不安と恐怖を描く。

・**厳重に監視された列車**（1966、イジー・メンツル）
メンツルの衝撃的な長篇デビュー作。多用される夜や静寂の場面が鮮烈なラストを際立たせる。

『ホップ・サイド・ストーリー』

・**マルケータ・ラザロヴァー**（1967、フランチシェク・ヴラーチル）
チェコ映画史上最も重要な作品とされる叙事詩大作。敵対する首領の息子を愛した女の生き様を描く。

・**火事だよ！カワイ子ちゃん**（1967、ミロシュ・フォルマン）
国内で永久上映禁止処分を受けた破壊的コメディ。フォルマンのチェコスロヴァキア時代最後の作品。

★**すべての善良なる同胞**（1969、ヴォイチェフ・ヤスニー）
農村に暮らす人々の運命のドラマが詩情豊かに描かれる。カンヌ国際映画祭監督賞受賞作。永久上映禁止作品を受けた。

・**アデルハイト**（1970、フランチシェク・ヴラーチル）
帰国した元チェコ将校が、元ナチス高官の娘と恋に落ちる心理劇。

『新入りの死刑執行人のための事件』

★**新入りの死刑執行人のための事件**（1970、パヴェル・ユラーチェク）
『ガリヴァー旅行記』の空想世界にカフカ的な不条理劇をミックスした諷刺作品。

＊1970 年代の娯楽作

『ほうきに乗った女の子』

★**ほうきに乗った女の子**（1972、ヴァーツラフ・ヴォルリーチェク）
全篇にトリック撮影を多用したファンタジー喜劇。

・**アデラ／ニック・カーター、プラハの対決**（1978、オルドジフ・リプスキー）
リプスキー＆ブルデチュカ（脚本）コンビが再び組んだ快作喜活劇。

Photo courtesy National Film Archive

【本件に関するお問合せ】東京国立近代美術館フィルムセンター　事業推進室　白鳥・大澤・冨田
TEL:03-3561-0823　FAX:03-3561-0830　nfc-pr@momat.go.jp　〒104-0031　東京都中央区京橋 3-7-6